

日本バレーボール界における大学の位置づけと将来像に関する研究 ～学連の構造と大学女子トップリーグのチームマネジメントに着目して～

Study about the Position and the Future of University Volleyball in Japan ～Focusing to the Structure of Japan University Volleyball Association and Management of Women's University Teams～

1K05B216

宮島 佑依

指導教員

主査 原田宗彦先生

副査 間野義之先生

第1章 緒言

19 世紀アメリカにおいて考案されその後日本に紹介されたバレーボールは、その安全性と手軽さから広くレクリエーションとして受け入れられ、生涯スポーツとしての競技人口の増加、国際大会での競技力向上など、日本においてその価値を確かなものにしてきた。しかし近年は少子化に伴う競技人口の減少や、長引く不況による相次ぐ実業団の撤退による国際競技力の低下、観客動員数の減少など様々な問題に直面している。多くのスター選手を輩出してきた大学バレーもまた、人気の低迷、競技人口の減少、国際競技力の低下が危惧されている。これまで日本のバレー界に大きく貢献し、重要な役割を担ってきた大学バレーが現在はどうのような位置におかれ、今後はどうあるべきなのかを定義することを目的として、学連の運営構造と、チームマネジメントの両観点から本研究を行った。

第2章 研究目的及び研究方法

<目的>

本研究は、日本の学校教育における競技スポーツが担う教育的役割を示し、学校スポーツ、とりわけ大学スポーツの存続意義を明らかにするために、大学バレーボールをモデルとし以下の2つの目的を設定した。

1. 関東大学バレーボール連盟の構造、マネジメントの現状、リーグ戦の現在のシステムの問題点を明らかにした上で、今後の大学バレーの

発展のために適切な運営の在り方を定義する。

2. 関東大学バレーボール女子1部リーグのチームマネジメント状況を明らかにし、日本の女子バレー界における大学の存在意義を定義すると共に、SWOT 分析を用いて適切なチームマネジメントの在り方を提言する。

<方法>

文献及びインタビュー調査

インタビュー対象

- ・関東大学バレーボール女子1部リーグ各校主務
- ・JVA 強化事業本部幹部 SWOT 分析(関東大学バレーボール女子1部リーグ戦の現状)

第3章 研究結果

1. 関東大学バレーボール連盟の構造とマネジメント状況

関東学連はリーグ戦における直轄リーグの学連委員 20 名程度が年間の運営を全て網羅している。学連に常勤の役員は存在せず、学生の、学生による、学生のための惰性的なマネジメントが毎年踏襲されている。尚、関東大学リーグ戦における直轄リーグ以外のリーグ戦は各部の代表委員の運営に委ねられており、学連委員が直接運営に関与することが無い。リーグ戦の順位の変動によりリーグ戦ごとに運営者が変わるため、運営のノウハウが持ち越せないという現状がある。

2. 女子1部リーグ戦のチームマネジメントに関する

る SWOT 分析

部を運営する上での財務は、大学からの補助金・OB からの支援金・部員の個人負担の 3 本柱で構成されており、これらの割合は大学毎にかなり異なる。特に月毎の部費による個人負担の大小は、そのまま成績に直結すると言っても過言ではない。

第 4 章 結論

1. 学連における競技運営部門とマーケティング部門の分離

大学バレーは既に多数のスター選手を有しており、メディアへの露出を期待できる可能性を秘めている。しかしそれらの選手をフィーチャーし、メディア価値を創造するだけのノウハウと余力は無い。それは 4 年間というサイクルで学連委員が変化していくという普遍の事実と、過密な年間スケジュールによる余力の無さ、全てが学生の手で運

営されており常勤の役員がいないという構造に問題がある。従来の学連委員が担ってきた役割である競技運営部門と、大学バレーを商品として扱うマーケティング部門にマネジメントを分割させ、競技会の運営とは一線を画したその道の専門部署を設置するべきである。

2. チームマネジメントにおけるスタッフ充実の必要性

女子 1 部各校主務のインタビュー調査においては、主務の担う業務は多岐にわたり、それはら練習以外の時間も負担となって主務の生活を拘束する。嘉悦大学の例に見られるように、会計管理を選手以外のチーム関係者が担うことで、マネージャーが選手のサポート、その他業務に徹することが出来るという結果からも、業務を細分化して分担し、一人ひとりの負担を軽減することがチームマネジメントを円滑にするといえる。